

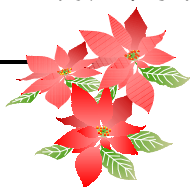


阿戸中だより

校訓
「自主・敬愛・責任」

平成22年
12月号
広島市立
阿戸中学校

今年1年“たくさんのありがとう”をいただきました。 お世話になりました！



師走も押し迫り、慌ただしくなりました。子どもたちは明日から冬休みを迎えます。クリスマス、お正月と楽しい行事も満載で家族との温かいお休みを過ごしてほしいと思います。でも、3年生にとっては勝負の時ですね。1日1日を大切に、自分の力に挑戦して下さい。「どのくらいの力を自分は持っているのだろう！」と思うとわくわくしませんか？ぜひ、行動を！！

ところで、今年1年間ありがとうございました。保護者の皆様、地域の皆様に子どもたちは手をかけられ、温かく見守られて穏やかに過ごすことができました。来年も、子どもたちも阿戸中学校もさらなる成長に向けて頑張りますので、引き続きよろしく願いいたします。

☆12/10 1年生が考えたオリジナル給食をいただきました。

小学校6年生と中学校1年生の連携で、それぞれがオリジナル給食を考えてプレゼンをしました。その中で選ばれた献立を調理していただいて、全校でいただきました。新しいメニュー「たこボール」を考えた班が選ばれたのですが、なんとこの日はおかずの残食0！、ご飯も50gだけだったそうです。おいしかったんですね！

1月は6年生が考えたメニューの給食をいただきます。楽しみです。



☆11/29 放課後コンサート

熊野高校の箏曲部 男子3名が、阿戸中に来てくれました。有名な『六段の調べ』や『夕焼け小焼け変奏曲』など馴染みのある曲目も交え、力強く、優雅に演奏してくれました。箏をはじめたきっかけは「日本の伝統文化を学びたかったから」だそうです。中学校の授業でも、和楽器として箏をやります。



☆たくさんの地域のみなさま 11/17 3年生高齢者交流会



☆ありがとうございました！☆ 12/16 2年生しめ飾りづくり



子どもたちの書いた作文が1月の「あと社協」に掲載されます。読んでやって下さい。

☆12/17 そば打ち体験(今年初めての試みでした！)



1年 ** **さん

自分達でそばを始めて打ったからすごく楽しかったです。そば粉をこねたりする時、手につくし、重いから大変でした。切る時はうまく同じ大きさに切れないから気になったけど、食べたらずごくおいしかったのでまた作りたいです。

教えて下さった方々も優しくかったので、すぐできました。大人になったら「そばを打ったね」と話ができるよう、忘れないようにしたいです。

本当にありがとうございました。

お知らせ

1/26～1/28 3年生学年末試験があります。

いよいよ中学生生活最後の定期試験です。入試直前の試験ですが、計画的に最善を尽くして下さい。日本全国の中学3年生が、同じように頑張っているのです。なぜ自分にできないことがあるのか！がんばれ！！

2/2は、3年生選抜・私学推薦入試です。

多くの方が受験する推薦入試です。自分を他人に売り込み、評価してもらうのが入試です。選ぶ人の視点に立って、自分をふり返ってみて下さい。何が不足か、何がアピールポイントか。今からやるべき事をしっかりピックアップして、最大限の努力をしましょう。成果を出した人がよく言いますね。“努力は人を裏切らない”と。裏切られたと思う人は実はふさわしい努力をしていなかっただけなのです。



阿戸中のフレッシュ教職員 学校支援員 ** ***先生

あっという間に秋が過ぎ、冬も本番となってきました。私も、この阿戸中学校に来てから早くも2ヶ月が過ぎました。母校に6年前とは違う立場で帰るといのは、懐かしい反面不思議なもので、『先生』と呼ばれることなど未だに慣れないところが多くあり、戸惑ってばかりいます。生徒だった頃の私は、いたずら好きのやんちゃで、よく先生方を困らせていました。阿戸中に来てからは、そんな事を思い出してばかりですが、その度に自分があの頃に比べて心身共に成長したのだと実感します。

とはいえ、やはりまだまだ自分は未熟者です。この阿戸中で、先生方や生徒の皆さんと接し、自分自身の成長とこれからの将来の糧になるよう努力していきますので、どうぞよろしくをお願いします。

子育て コーチング 4 「思春期その1」

中学生になって子どもの変化にとまどっていませんか。

「小学校の時はよく言うことを聞かいい子だったのに・・・」小学校の先生からもお母さん方からもよく聞く言葉です。中学校では「中学生はそんなもんよ。小学生の時のようにいくわけないじゃん」と、正直思っています。「逆にそれが出来ないまま大人になる方が怖い」と。だから反抗期が見え始めたら「お母さん、順調に成長していますね。」と言っています。

体がどんどん成長するように、心も成長していきます。では、どう成長していくのか。赤ちゃんの時の依存度100%から、だんだん自分でできることを見つけ、何でも自分でしようとする3歳前後が「自我の主張の1回目」いわゆる「第一次反抗期」です。そして「なぜ」が出てきて、「屁理屈」を言うようになって、「自分の価値観」を形成していきます。それが中学生の時期、「思春期」です。「第二次反抗期」とも言われるくらいですから、かなりのバトルが親子で繰り広げられることとなります。この時、これまでにどう子どもと関わってきたかが親として問われるのです。

例えば、「第一次反抗期」は「この人は少々じゃ揺るがない！」と子どもに思わせることがポイントです。スーパーやおもちゃ屋で「だめ。買わんよ」と言っておきながら、子どもの抵抗が恥ずかしくて「しょうがないね。今回だけよ」と言ってしまったことはありませんか？子どもはここで親の扱いを学んだのです。「ぎゃーぎゃー言えば通る！」と。勇気を持って、「丁寧に無視をすること」が必要なのです。

「なぜ」の時期には、面倒がらずとにかく答えてやるのです。答えられないことは一緒に調べようとするだけで良いのです。本やネット、誰かに聞くとか。方法を教えてやれば、考えること、調べることが好きな本物の勉強好きな子ができるという副産物もあります。ゆめゆめ、「そんな変なこと聞きんな！」と言っははいけなかったのです。

「屁理屈」を言う時期にはとにかくこちらも理屈で返すのです。言い負けて「屁理屈ばかり言いんな！」と感情で返してはいけません。

「あー、どれもやってしまった！」という叫び声が聞こえてきそうですね。私も後悔しきりです。実はこれらはいずれも親としての枠組みがしっかりしているかどうか問題となるのです。未熟な子どもの時期は、親のしっかりした枠の中で安心してほしいのです。子どもの抵抗で簡単に感情的になったり揺らいだりするような親の枠では不安なのです。不安感を抱いたまま思春期を迎えるとそれが不信感に変わり、親の矛盾をとことんついてきます。「あのときこうだった。ああだった。おかしいよ！」と。これは大げんかになります。我々教員に対しても同じです。小学校時代の対応や、中1時代の対応で適切でないことがあったら、必ず反抗期の時に不信感のかたまりで攻撃してきます。でも大丈夫です。時間はかかりますが、子どもは必ず成長します。では今どうするか。(長くなったので、次回へつづく)